日刊 動労千葉

1988.11.1

No.2917

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

黒ネクタイ・終夜運転強要を許すな

九月十九日の天皇ヒロヒロの「重体」発表以来、全国各地で祭りや記念行事、学園祭、運動会や、お笑い・娯楽番組、演歌歌手の結婚式などの延期・中止などが相次いでいる。連日・連夜続けられる天皇の「病状の発表」は、すでに現在まで一ケ月半近くに及ぶ。

しかも、「天皇は中国・アジア侵略・第二次世界大戦で軍部の開戦を止めることが出来なかった」「終戦を決断したのは天皇」とあたかも天皇が平和主義者であるかのようなデマ宣伝が繰り返されている。皇居をはじめ全国各地に「記帳所」が設置され、町内会・会社・学園ぐるみの強制的な「記帳所」への動員が動員が行われている。そして、「記帳」に行かない者は「非国民」かのような風潮がふりまかれ、さらに、外務省は「天皇は元首」とイギリスに通告し、「大正から昭和の激動の再来」のような異常事態が続いてるのだ。

ＪＲにおいても天皇が死んだら「半旗、弔旗の掲揚」「黒ネクタイの着用」などを強制させようとすでに「非公式」に現場に通達されているが、（日刊十月十一日付け２９０４号参照）こうしたこと自体、「思想・信条の自由」さえ踏みにじる憲法違反の暴挙である。また、会社当局は、鉄道労連・革マルの全面協力のもと、皇居に向けた「弔問列車」の終夜運転を強行しようとしているのだ。

まさに、日本列島全体が「天皇Ｘデー準備一色」に塗りつぶされてしまったのかのように見えてくる。

こうした中、社会党は土井委員長自ら真っ先に「記帳」に行き、共産党選出の大阪府羽びき野市々長も「記帳」に行き、市民のひんしゅくを買うという屈服を深めている。

天皇は A級戦犯

戦前、「明治憲法」下では、天皇は政治・軍事を統合する「元首」であった。中国・アジア侵略も日米開戦も「天皇の意志」で行われたのであり、そして、終戦を前にした１９４５年２月「敗戦は明らか、戦争は終結すべき」との近衛文麿内閣の「上奏」を拒否し、「国体護持」（天皇制の存続）のために終戦を引き伸ばし、日本での唯一の地上戦としてあった沖縄戦（四月）、広島、長崎の原爆投下八月）まで至り、やっと戦争終結を行ったのだ。天皇は、アジア二千万の虐殺を行った「Ａ級戦犯」なのだ。その証拠として「地獄が天皇を待っている」（イギリス新聞サン）「ナチの天皇の断末摩、この君主の生涯は血まみれであり、中国への侵略を決断し、アジア太平洋で日本軍が行った数百万人の殺りくを命じたのは彼である」（フランス新聞ユマニテ）「どれだけ世界から嫌われているか気づくべきだ」（タイ）と全世界で戦犯天皇ヒロヒトに対する非難の声があがっている。

国内においても天皇「自粛」キャンペーンをめぐって様々な論議が巻きおこされ、昨年の「沖縄国体」に祭しての「天皇（皇太子）来沖」に反対して決起した知花氏支援の闘いが広がり、学生の「天皇『自粛』キャンペーン」反対のストライキが行われている。

黒ネクタイ・終夜運転強要絶対反対

天皇の「死」が目前に迫った。はっきりしているのは、われわれは天皇が「死のうが死ぬまいが」現在、「京葉線暫定開業十二月一日ダイ改」をめぐり、当局が不当な「団交」に終始し、「構内運転の兼掌化」などの絶対に許せない「合理化」を強要しようとしているのであり、当局の「不誠実な団交」「合理化強行」「鉄道労連との片仕切り」にはストライキをもって闘わざるを得ないということだ。いまこそ、第二回支部代表者会議の確認どおり、「十一月五日以降、全支部は全組合員を対象としたストライキ準備体制を確立」しよう！

天皇Ｘデーに対してはこ

黒ネクタイ強要、終夜運転の強制など不当な取り扱いについては、キッパリと拒否すること。

指令第3号を貫徹しよう

十二・一ダイ改合理化を許すな！

京葉線暫定開業・十二月一日ダイ改まで残されるところわずか一ケ月。この間、当局は「作業の遅れ」を理由にいまだ「Ｂダイヤ、作業ダイヤ」の提出を拒否。また、「最低限の安全確保」のために発出した「動労千葉申４号」の「食事時間・睡眠時間の改善要求」に対し、「就業規則上ではもっときつくなってもおかしくはない」などと公言するなど誠意をもった団体交渉すら拒否している状況である。

今次ダイ改に伴う「大合理化計画」をわれわれは断じて認める訳にはいかない。「車両係の『限定免許』による構内運転の兼掌化、仕業検査の担当」などは、運転保安に重大な危機をもたらすと同時に、今後の高齢者対策、さらには出向攻撃などにもたらす影響などを考え合わせると断じて一歩も後には下がれない問題なのだ。

鉄道労連松崎による会社グルミの「組織破壊」の攻撃

「８・８集会までに組織率七五％」という鉄道労連・松崎の願望は「夢」となった。労連内部では、「民社党の機関誌」をめぐり、いまやまた旧鉄労役員が「統制違反」として東鉄労から排除されようとしている。

松崎は、「一企業・一組合はそう簡単にうまくはいかない」と開き直り、「一企業・一組合が失敗しているのは会社の責任」として鉄道労連の組織率の最も低い、千葉、水戸を焦点にしながら当局と一体となった「動労千葉、国労つぶし」を新たに強めようと策している。

千葉においては、「十一月五日、松崎・松田講演会」を千葉支社の主催で開催し、新たな組織破壊を画策しているのだ。断じて許せない。

こうした情勢から、本部は

一、全支部は、全組合員を対象としたストライキ準備体制を十一月五日までに確立すること。

二、全支部は、十一月五日に「スト体制突入」「組織破壊粉砕」の職場集会を開催すること。

を指令する。